

第64回日本小腸学会学術集会 プログラム

シン・小腸学を求めて どこまで、み（視・観・診）れるか？内視鏡学の挑戦

第1会場

8:50 ~ 8:55

開会の辞

中村 志郎（大阪回生病院 消化器内科 IBDセンター）

9:00 ~ 10:10

主題セッション1

「小腸病変を有する希少疾患の内視鏡診断（炎症・腫瘍・その他）」

司会： 仲瀬 裕志（札幌医科大学医学部 消化器内科学講座）
江崎 幹宏（佐賀大学医学部 消化器内科）

共催：ミヤリサン製薬株式会社

<司会のことば>

近年、下部消化管の希少疾患では、非特異性多発性小腸潰瘍症がPG輸送体をコードするSLCO2A1遺伝子変異に伴う活性型PGE2過剰を原因とし、IBDUにおいてはMEFV遺伝子変異によるpyrinの機能異常とそれに伴うIL-1 β 過剰の病態を呈する症例の存在が話題となっている。これらは症状や内視鏡などの臨床所見に基づく疾患像と、その後の基礎的な研究により病因の解明に繋がっている。本セッションでは、カプセル及びバルーン内視鏡で小腸に病変が確認された様々な希少疾患の診断例や診断困難例に関する演題を幅広く公募し、今後の診断学や病態治療の解明に寄与できればと考えております。

基調講演 CEAS研究の歩み ―小腸病変の観察から疾患概念の確立へ―

梅野 淳嗣（九州大学大学院 病態機能内科学消化器研究室）

SI-1 クローン病との鑑別を要したMEFV遺伝子関連腸炎の一例

芥川 剛至（佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部）

SI-2 当院における家族性地中海熱23例の臨床的検討

三戸岡 英晃（大阪医科薬科大学病院）

SI-3 選択的IgM欠損症を伴ったCrohn病様腸炎の一例

堀 優太（NHO 弘前総合医療センター）

SI-4 消化管GVHDの小腸病変はどこまでみえるか

―病理組織診断をアンカーとしたカプセル内視鏡所見の解析―

柴田 理美（がん・感染症センター都立駒込病院 消化器内科）

SI-5 小腸カプセル内視鏡を施行した骨髄異形成症候群患者における小腸病変の臨床的特徴

重信 修宇也（広島大学病院 消化器内科）

SI-6 ステロイド・インフリキシマブ抵抗性irAE小腸炎の2例-経時的内視鏡による病変評価-

中田 晃暢（大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学）

SI-7 小腸出血で発症し、病理解剖で大動脈原発が示唆された血管肉腫小腸転移の一例

富田 麻友（愛知医科大学病院消化器内科、稲沢市民病院消化器内科）

特別発言 今枝 博之（埼玉医科大学医学部 消化器内科）

10:15 ~ 10:45

理事長講演 「小腸学会、次のステップへ」

司会： 中村 志郎（大阪回生病院 消化器内科 IBDセンター）

演者： 松本 主之（岩手医科大学内科学講座 消化器内科分野）

10:50 ~ 12:00

主題セッション2

「小腸マイクロバイオーームとヒト疾患の基礎・臨床研究」

司会： 金井 隆典（慶応義塾大学医学部 消化器内科）
高木 智久（京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学）

共催：東亜薬品工業株式会社

<司会のことば>

腸内細菌叢と疾患との関わりが広く注目される一方で、その多くは糞便を対象とした研究であり、消化吸収と粘膜免疫の最前線である小腸マイクロバイオーームについては、なお未解明の点が多く残されています。本セッションでは、IBDを始めとする各種消化器疾患に加え、脳腸相関や代謝・免疫・神経疾患との関連、宿主-細菌相互作用、内視鏡を用いた解析、新たな診断・治療への応用まで、基礎・臨床を問わず幅広く演題を募集し、この領域のさらなる発展に繋がればと考えています。

基調講演 十二指腸粘膜関連細菌叢から紐解く上部消化管疾患

- 機能性ディスペプシアから十二指腸腫瘍まで -

高木 智久（京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学）

S2-1 腸管上皮細胞オートファジーが回腸腸内細菌叢に及ぼす影響

西田 淳史（滋賀医科大学 消化器内科学講座）

S2-2 腸上皮の機能的特性に着目した小腸機能再構築

杉本 真也（慶應義塾大学医学部 内科学（消化器））

S2-3 小腸内細菌異常増殖症（SIBO）における胆汁酸組成の検討

馬場 重樹（滋賀医科大学医学部 基礎看護学講座（内科学・栄養学））

S2-4 PPI併用下におけるNSAIDs起因性小腸潰瘍形成と便細菌叢との関連

水江 龍太郎（九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学）

S2-5 膵内外分泌機能からみた十二指腸粘膜関連細菌叢と糞便細菌叢の比較

北江 博晃（京都府立医科大学大学院医学研究科 生体免疫栄養学/消化器内科学）

S2-6 炎症性腸疾患腸内微生物叢の変化とその解析法の進歩と問題点

安藤 朗（川西市立総合医療センター IBDセンター）

特別発言 安藤 朗（川西市立総合医療センター IBDセンター）

12:05 ~ 13:05

ランチョンセミナー1

「クローン病診療におけるGuselkumabのCutting Edge」

司会： 日比 紀文（慶應義塾大学名誉教授）
渡辺 守（順天堂大学大学院医学研究科 オルガノイドセンター）

共催：ヤンセンファーマ株式会社

演者： クローン病に対するGuselkumabの使いどころを考える

松岡 克善（東邦大学医療センター佐倉病院 消化器内科）

小腸病変・肛門病変に対するGuselkumabの有用性

久松 理一（杏林大学医学部 消化器内科学）

13:10 ~ 13:30

総会・評議員会

13:35 ~ 14:45

主題セッション3

「クローン病 小腸病変評価の最前線 (MRE, CTE, 腸管エコー, バイオマーカーなど)」

司会： 新崎 信一郎（兵庫医科大学医学部 消化器内科学）
竹内 健 （辻仲病院柏の葉 消化器内科・IBDセンター）

<司会のことば>

近年、本邦のIBD専門施設を中心とした小腸内視鏡によるクローン病(CD)小腸病変と臨床経過に関する研究より、CD長期予後の改善に深部小腸病変の治療の重要性が明らかとされています。一方、全層治癒(transmural healing)がCDの長期予後に関連することから、MR/CTエンテログラフィ(MRE・CTE)、また最近ではその簡便性より体外式腸管超音波検査(IUS)などを用いる横断的画像診断法で評価することがCDにおける治療目標とされています。一方、画像検査と比較しより非侵襲性のロイシンリッチ α 2グリコプロテイン(LRG)やカルプロテクチンなどのバイオマーカーを用いた疾患活動性モニタリングにも大きな期待が寄せられています。本セッションでは、各検査法の有用性と限界、組み合わせによる評価の最適化、treat to target戦略への応用などについて、単施設・多施設の知見を広く募集し、今後のCD診療に寄与できればと考えています。

基調講演 クローン病小腸病変評価

竹中 健人（東京科学大学 消化器連携医療学講座）

- | | |
|-------|--|
| S3-1 | クローン病小腸病変に対するリサンキズマブの内視鏡的有効性に関する検討
脇田 碧（兵庫医科大学） |
| S3-2 | リサンキズマブ血中濃度によるクローン病の内視鏡的寛解予測能の検討
吉田 晋也（滋賀医科大学 消化器内科） |
| S3-3 | リサンキズマブ治療後の小腸病変とLRGの経時的推移
佐藤 将嗣（辻仲病院柏の葉 診療技術部薬剤科） |
| S3-4 | クローン病患者におけるLRGとプロハプトグロビンによる
サイトカインプロファイリングと治療効果予測
良原 丈夫（大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学） |
| S3-5 | クローン病の小腸病変評価における
ロイシンリッチ α 2グリコプロテインと便中カルプロテクチンの比較
河村 達哉（愛知医科大学 内科学講座消化管内科） |
| S3-6 | 無症候性クローン病における小腸カプセル内視鏡と便中カルプロテクチンによる再燃リスク評価
上野 伸展（旭川医科大学 消化器内視鏡医学講座） |
| S3-7 | クローン病における小腸通過動態の定量評価—カプセル内視鏡の時間情報に着目して—
平田 有基（大阪医科薬科大学 内科学Ⅱ） |
| S3-8 | 術後クローン病の機械学習による内視鏡的再発予測：J-PROSPECT study sub解析
藤邑 勇太郎（佐賀大学医学部 内科学講座消化器内科） |
| S3-9 | クローン病の小腸狭窄病変における腸管超音波検査によるダブルバルーン内視鏡所見の予測
小松 悠香（杏林大学医学部 消化器内科学） |
| S3-10 | クローン病小腸狭窄に対するバルーン拡張術における内視鏡的評価の意義
高嶋 祐介（富山大学 炎症性腸疾患内科） |

特別発言 大塚 和朗（昭和医科大学横浜市北部病院 消化器センター）

14:50 ～ 15:50

アフタヌーンセミナー1
**「TeduglutideとVedolizumabが
IBDにもたらせたDeep Impact」**

司会： 内野 基 （兵庫医科大学 炎症性腸疾患外科）
飯島 英樹（大阪けいさつ病院 消化器内科）
演者： 荻野 崇之（大阪大学大学院医学研究科 消化器外科学）
細見 周平（大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学）

共催：武田薬品工業株式会社

15:55 ～ 16:35

会長特別企画1
「シン・小腸学 小腸疾患に対する再生医療の現在地と展望」

司会： 緒方 晴彦（藤田医科大学羽田クリニック 消化器内科学）
演者： 岡本 隆一（東京科学大学 消化器内科）

16:40 ~ 17:50

主題セッション4

「小腸疾患に対する小腸内視鏡検査と治療の新展開」

司会： 大宮 直木（藤田医科大学医学部先端光学診療学講座） 共催： 富士フイルムメディカル株式会社
岡 志郎（広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学）

<司会のことば>

カプセル及びバルーン内視鏡の実用化以後、小腸疾患の診断と治療は飛躍的な進歩を遂げ、小腸内視鏡による止血・腫瘍切除・バルーン拡張などは既に定着し、術後再建腸管での胆膵処置など特殊条件下での内視鏡的な診断と治療の範囲拡大にも寄与しつつある。近年ではAIを用いた画像診断・読影支援や、様々な新規デバイスの開発や挿入法の工夫など、小腸内視鏡診療はさらなる発展の段階を迎えています。本セッションでは、小腸内視鏡検査および治療に関する最新の臨床成績、新たな診断・治療手技、デバイスや処置具の工夫、AIの応用など、基礎的検討から臨床研究、症例報告まで幅広く演題を募集し、小腸内視鏡学のさらなる発展に繋がりたいと考えています。

- S4-1 小腸カプセル内視鏡と大腸内視鏡の同日施行（ハイブリッド内視鏡）の当院での経験
前田 高人（弘前大学大学院医学研究科 消化器血液免疫内科学講座）
- S4-2 当院におけるOGIB症例に対するカプセル内視鏡検査の現状
久能 宣昭（福岡大学病院 消化器内科）
- S4-3 小腸血管性病変におけるvon Willebrand因子高分子多量体欠損、大動脈石灰化、血小板凝集能
大宮 直木（藤田医科大学医学部 先端光学診療学）
- S4-4 Heyde症候群における小腸内視鏡の位置づけとTAVR施行後の長期予後
由本 純基（京都府立医科大学 消化器内科）
- S4-5 小腸精査後も出血源不明なOGIBにおける再出血リスク層別化
大西 祥代（岐阜大学医学部 消化器内科）
- S4-6 グセルクマブによるクローン病小腸病変に対する2年間の内視鏡学的有効性
大森 鉄平（杏林大学医学部附属杉並病院 消化器内科）
- S4-7 クローン病の小腸狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の有効性と関連因子：単一施設後ろ向き研究
研究 懿玲（福岡大学医学部 消化器内科学講座）
- S4-8 クローン病の小腸狭窄に対するダブルバルーン内視鏡併用内視鏡的バルーン拡張術の長期成績
山村 健史（名古屋大学医学部附属病院）
- S4-9 クローン病小腸狭窄に対する透視下バルーン拡張術の安全性
今井 隆行（滋賀医科大学 消化器内科学講座）
- S4-10 家族性大腸腺腫症における小腸腫瘍の頻度と切除成績についての検討
水谷 真理（慶應義塾大学 腫瘍センター）
- S4-11 深部小腸病変に対するDBET-GIEMRの有用性
壺井 章克（広島大学病院 消化器内科）

特別発言 山本 博徳（自治医科大学 富士フイルムメディカル国際光学医療講座）

17:55 ~ 17:58

閉会の辞

中村 志郎（大阪回生病院 消化器内科 IBDセンター）

17:58 ~ 18:00

次回当番会長挨拶

平井 郁仁（福岡大学医学部 消化器内科）

第2会場

9:00 ~ 10:10

一般演題1

座長： 杉本 健（浜松医科大学 消化器内科学）
中村 正直（愛知医科大学 消化管内科）

コメンテーター 柿本 一城（大阪医科大学 内科学Ⅱ）

O1-1 小腸癌の診断手法と治療成績についての検討
藤井 陽三（福岡大学病院）

O1-2 卵巣転移を契機に小腸検索を行い診断に至った原発性小腸癌の1例
横山 佳浩（札幌医科大学医学部 消化器内科学講座）

O1-3 前方視型カプセル内視鏡で指摘困難なペーチェット病回腸病変を
CapsoCam Plusで検出した1例
横山 佳浩（札幌医科大学医学部 消化器内科学講座）

O1-4 難治性クローン病に対するリサンキズマブの有効性、治療継続率および安全性の検討
水田 昇（大阪医科薬科大学 内科学Ⅱ）

O1-5 AT-naïve クローン病患者における抗IL-23関連抗体製剤と抗TNF α 抗体製剤の治療成績
横田 佳大（滋賀医科大学附属病院 光学医療診療部）

10:50 ~ 12:00

スポンサードセミナー1

「シン・VCE 小腸カプセル内視鏡の Current Trends」

司会： 樋口 和秀（ラポール会 青山病院）

共催：コヴィディエンジャパン株式会社

演者： 細井 賢二（東京都立小児総合医療センター 消化器科）
米田 頼晃（近畿大学医学部 消化器内科）

12:05 ~ 13:05

ランチョンセミナー2

「クローン病小腸病変の診療アプローチ」

司会： 渡辺 憲治（富山大学 炎症性腸疾患内科）
土屋 輝一郎（筑波大学医学医療系 消化器内科）

共催：アッヴィ合同会社

演者： 藤井 俊光（東京科学大学 消化器連携医療学
東京科学大学病院 潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター）
「クローン病診療課題に対するマネジメント」

山村 健史（名古屋大学医学部附属病院 光学医療診療部）
「クローン病診療におけるモニタリングと治療の実際」

13:35 ~ 14:45

一般演題2

座長： 櫻庭 裕丈（弘前大学医学部 消化器血液内科学講座）
加藤 真吾（埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科）

コメンテーター 西田 淳史（滋賀医科大学 消化器内科）

O2-1 MDS関連腸管ベーチェット病類似消化管病変にIgA血管炎を合併した1例
小柴 良司（大阪医科大学内科学Ⅱ）

O2-2 寛解期炎症性腸疾患患者における回腸末端パイエル板の内視鏡的特徴に関する探索的研究
菓 裕貴（鳥取大学医学部附属病院 消化器内科）

O2-3 小腸Crohn病における粘膜遺伝子発現と内視鏡病変および病変経過との関連
濱田 友佳（関西医科大学 内科学第三講座）

O2-4 縦隔気腫を伴った小腸腸管気腫症の1例
浅利 享（弘前大学医学部附属病院 消化器血液免疫内科）

O2-5 十二指腸黒色粘膜を契機に診断に至った悪性黒色腫小腸転移の一例
磯 俊太（岩手医科大学内科学講座 消化器内科分野）

O2-6 骨盤腔内小腸腫瘍に対して経口的バルーン内視鏡で容易に検出しえた症例の検討
今枝 博之（埼玉医科大学 消化管内科）

14:50 ~ 15:50

アフタヌーンセミナー2 「炎症性腸疾患 内科治療におけるMirikizumabの意義」

司会： 穂苅 量太（防衛医科大学校 内科学講座 消化器内科）

共催：持田製薬株式会社

演者： 大森 鉄平（杏林大学医学部杉並病院 消化器内科）
猿田 雅之（東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科）

15:55 ~ 16:35

会長特別企画2

「ここが変わった！小腸内視鏡診療ガイドライン改訂のPoint」

司会： 田中 信治（医療法人ハートフル アマノ病院／広島大学名誉教授）

演者： 矢野 智則（自治医科大学 消化器内科）

16:40 ~ 17:50

アフタヌーンセミナー3

「クローン病 長期経過における栄養療法の意義を見つめ直す」

司会： 長沼 誠（関西医科大学 内科学第三講座）

共催：EAファーマ株式会社

演者： 平井 郁仁（福岡大学医学部 消化器内科）
馬場 重樹（滋賀医科大学医学部 基礎看護学講座（内科学・栄養学））